

平成28年2月県議会定例会

教育委員会委員長演述要旨

岩手県教育委員会

第4回県議会定例会が開会されるに当たり、平成28年度の教育行政推進の基本的な考え方と施策の大要について申し上げます。

(はじめに)

東日本大震災津波の発災から間もなく5年という大きな節目の日を迎えようとしています。

改めて、犠牲となられた方々に対し、哀悼の意を表しますとともに、被害を受けられた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

先月、復興のシンボルとして位置付けられた希望郷いわて国体の冬季大会が始まりました。岩手県選手団の活躍などを通じ、来県される全国の皆さんに、岩手が、岩手の子どもたちが復興に向かって力強く歩んでいる姿を、そして、これまでいただいた数多くの支援に対する感謝の気持ちをしっかりと伝えていきたいと思えます。

被災地では、未だ様々な困難を抱えている子どもたちもおりますが、来年度は被災した小中学校の移転新築がピークを迎えるなど、復興の歩みは着実に進んでいます。県教育委員会といたしましては、平成28年を本格復興完遂年と位置付けた県の取組と軌を一にし、学びの場の復興に向けて全力で取り組んで参ります。

また、本県教育の振興に当たっては、「いわて県民計画」第3期アクションプランに基づき、「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成に向け、中長期的展望に立ち、時代のニーズに的確に対応しながら、学校教育、社会教育、生涯学習、文化芸術、スポーツの振興を図って参ります。

特に平成28年度は、児童生徒一人ひとりに向き合い、寄り添う教育を充実し、切れ目のない学びの保障の実現に向け、学習面、生活面などへのきめ細かなサポートを多方面から行うため、学力向上対策やいじめの防止、早期発見・早期対応に向けた取組の徹底、県民の皆さんと意見交換を繰り返し策定する、新たな県立高等学校再編計画を踏まえた教育環境の整備に重点的に取り組むとともに、希望郷いわて国体における目標達成に向け、関係機関等と一体となった取組を推進いたします。

また、本年4月には新たな教育委員会制度による教育長が任命されることとなっております。法改正の趣旨に鑑み、既に設置している総合教育会議の場などを活用し、知事ともこれまで以上に連携を深めながら、本県の一層の教育振興に努めて参ります。

以下、教育施策の重点事項について申し述べます。

(Ⅰ 東日本大震災津波からの教育の復興)

まず、東日本大震災津波からの教育の復興の取組について申し上げます。

(1 きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実)

第1に、きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実の取組についてであります。

(いわての復興教育の推進)

「いわての復興教育」の推進につきましては、特色ある復興教育の実践事例の普及や復興教育副読本を効果的に活用した教育活動に取り組んで参ります。

また、家庭・地域との連携による発達段階に応じた防災教育を推進するほか、高校生に対して避難所の運営体験等の防災学習を実施するなど、実践的な防災教育を推進いたします。

(幼児児童生徒の心のサポートの充実)

幼児児童生徒の心のサポートにつきましては、スクールソーシャルワーカーを増員し、子どもたちの置かれている家庭環境や社会環境の変化など、多様化する支援ニーズにきめ細かに対応するほか、一人ひとりの状況を経年で把握する「こころのファイル」を活用するなど、中長期にわたる支援に取り組んで参ります。

(児童生徒の安全で安心な教育環境の確保)

児童生徒にとって安全で安心な教育環境を確保するため、高田高校の教育環境整備を進めるほか、市町村立学校施設の早期復旧整備への支援に取り組んで参ります。

また、「いわての学び希望基金」を活用し、震災により親御さんを失くした児童生徒に対する奨学金の給付や、沿岸地域の高校の産業教育設備の整備を行うなど、被災児童生徒への支援に取り組んで参ります。

さらに、心のサポートや学習支援などに対応するため、加配教職員を配置するほか、放課後や週末における学習支援などを行う居場所づくりを推進いたします。

(2 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承)

第2に、文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承の取組についてであります。

被災地における文化芸術活動の再興につきましては、文化芸術施設の復旧・再開の支援や、優れた文化芸術の鑑賞機会の提供を行うとともに、被災児童生徒の文化活動の大会参加を支援いたします。

また、全国からの職員派遣を引き続きいただきながら、三陸沿岸道路などの埋蔵文化財調査を進めるとともに、被災地の文化財や美術品等の修復や適切な保存・管理を支援いたします。

(3 社会教育・生涯学習環境の整備)

第3に、社会教育・生涯学習環境の整備の取組についてですが、被災市町村の社会教育施設の復旧・再開を支援するとともに、地域住民が行う学習支援の実施により、子どもの学習環境の充実や地域コミュニティの復興を図って参ります。

また、教育振興運動における復興教育の実施や、地域住民を対象とした学びの機会の充実により、復興に向けた人材の育成に取り組んで参ります。

(4 スポーツ・レクリエーション環境の整備)

第4に、スポーツ・レクリエーション環境の整備の取組についてありますが、地域との合意形成を図りながら、全壊した高田松原野外活動センターの代替施設の整備を進めて参ります。

また、自校のグラウンド等で運動部の活動が十分に行えない学校に対し、練習場所への移動や大会参加に係る経費を支援いたします。

(II 「いわて県民計画」第3期アクションプランの着実な推進)

次に、「いわて県民計画」第3期アクションプランの着実な推進の取組について申し上げます。

(1 学校教育の充実)

第1に、学校教育の充実についてありますが、グローバル化の進展や高度情報化の進行など、変化の激しい社会を子どもたちがしっかりと生き抜いていくことができるよう、児童生徒一人ひとりに「生きる力」を確実に身に付けさせ、社会的自立の基礎を培うとともに、児童生徒の適性、進路等に応じて、その能力を最大限に伸ばし、社会の形成者として必要な資質を養うため、一人ひとりの個性や特性等にきめ細かく対応し、小・中・高の各段階を通じて、その能力の伸長に努めて参ります。

また、現在、県民の御意見をお聞きしながら検討を重ね策定を目指している「新たな県立高等学校再編計画」を踏まえ、生徒一人ひとりの希望する進路の実現や自己実現ができる適切な教育環境の整備に努めるとともに、小規模校におけるICTを活用した遠隔授業

のモデル事業にも取り組んで参ります。

(児童生徒の学力向上)

次に、児童生徒の学力向上についてであります。学習状況調査の結果分析に基づいた各教科の授業改善を進めるほか、国語、数学、英語を中心とした取組が学校組織全体に広がるよう取り組んで参ります。

また、明確な学習課題の提示などによる、「わかる授業」の徹底や、授業内容の理解・定着を図るため、家庭学習の充実に取り組んで参ります。

さらに、選挙権年齢の引き下げに対応する主権者教育の実施、本県の歴史・文化を学ぶ教育などの各校の特色ある教育活動の充実を図るほか、イングリッシュ・キャンプの開催、高校生の海外派遣、スーパーグローバルハイスクールの推進などにより、グローバル化社会に適応できる知識や能力を持つ次代を担う人材の育成に取り組んで参ります。

これまで小学校1年から4年、中学校1年において実施してきた35人以下学級を中学校2年に拡充し、思春期を迎え不安定な年代における生徒指導上の諸課題や基礎学力の定着にきめ細かに対応いたします。

(キャリア教育の充実)

次に、キャリア教育の充実についてであります。「いわてキャリア教育指針」に基づき、学校教育活動全体において、小・中・高

の各発達段階に応じた計画的・組織的な取組を行うことにより、社会人、職業人として自立し、主体的に人生計画を立て、進路選択ができる能力の育成を図って参ります。

また、生徒一人ひとりの多様な進路希望の達成と将来の本県を支える人材の育成のため、産業界と協働した取組を推進いたします。

（豊かな心を育む教育の推進）

次に、豊かな心を育む教育の推進についてであります。学習指導要領に新たに「特別の教科」として位置付けられた道徳の趣旨の徹底と授業改善に取り組んで参ります。

また、各学校における組織的な対応の強化やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置により、いじめや学校不適應の未然防止、早期発見・早期対応のための教育相談体制の充実を図って参ります。

さらに、本年度設置した、「岩手県いじめ問題対策連絡協議会」などを通じた関係機関との連携強化を図り、いじめの重大事態等に迅速かつ機動的に対応いたします。

（健やかな体を育む教育の推進）

次に、健やかな体を育む教育の推進についてであります。「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の開催を契機として、児童生徒が運動・スポーツに親しむことができるよう、「希望郷いわて元気・体力アップ^{ロクマル}60運動」を推進いたします。

また、児童生徒の望ましい生活習慣や肥満の改善に向け、学校・家庭・関係機関と連携した健康教育を推進するほか、地域スポーツ指導者の学校への派遣などにも取り組んで参ります。

(特別支援教育の充実)

次に、特別支援教育の充実についてであります。特別支援教育コーディネーターの活用や個別の教育支援計画に基づく指導、タブレット端末を活用した実践的・効果的な授業の展開など、特別支援教育の質の向上を図って参ります。

また、交流籍を活用した小・中学校の児童生徒との交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進いたします。

さらに、特別支援学校技能認定制度の研究開発に取り組むほか、企業との連携協議会の活用や就労サポーター制度の利用促進などにより、特別支援学校における就職支援を強化して参ります。

(家庭・地域との協働による学校経営の推進)

家庭・地域との協働による学校経営の推進についてであります。各学校の学校経営計画における目標や取組に関する学校評価の実施・公表を推進するとともに、その結果を活用した学校運営の改善に向けた取組を支援いたします。

また、各小・中学校が掲げる「まなびフェスト」において、教育振興運動との目標の共有化を図るなど、教育振興運動と連携した取組を推進いたします。

さらに、学校支援地域本部の充実により、地域人材の参画による学校の教育活動の実践を支援いたします。

(学校施設の整備)

次に、学校施設の整備についてであります。久慈高校や盛岡農業高校の改築を進めるほか、千厩高校のグラウンド等の整備を行うなど、学校施設の充実や耐震化を推進いたします。

また、特別支援学校における教育環境の充実のため、盛岡となん支援学校の移転新築や花巻清風支援学校分教室の北上市への整備など、教室不足解消等に向けた取組を進めて参ります。

さらに、盛岡となん支援学校移転後の空き校舎の活用や釜石地域における特別支援教育環境の整備に関し、関係機関との調整に取り組んで参ります。

(2 社会教育の充実と生涯を通じた学びの環境づくり)

第2に、社会教育の充実と生涯を通じた学びの環境づくりについて申し上げます。

教育振興運動の充実につきましては、全県共通課題として設定している「情報メディアとの上手なつきあい方」の先進的な取組事例を各実践区に紹介することなどを通じ、地域の教育課題解決に向けた自主的な運動の活性化に取り組んで参ります。

また、保護者に対する学習情報の提供や相談体制の充実による家庭教育支援、ブックリストの活用による児童生徒の読書活動の推進

に取り組むほか、地域の教育力を活用した放課後や週末における安全・安心な居場所づくりに取り組んで参ります。

さらに、高校生等に対する教育の機会を確保するため、就学支援金や奨学給付金の支給による保護者の経済的負担の軽減に取り組んで参ります。

(3 文化芸術の振興)

第3に、文化芸術の振興について申し上げます。

世界遺産登録の推進につきましては、昨年7月に本県2件目の世界遺産に登録された橋野鉄鉱山の整備・活用計画の策定を支援するなど、世界遺産委員会の決議に適切に対応するほか、柳之御所遺跡の史跡公園の整備を進めるなど「平泉の文化遺産」の拡張登録に向けた取組を推進いたします。

また、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、関係自治体と連携した取組を進めて参ります。

さらに、文化振興基金を活用した芸術家派遣への支援を行うなど、文化芸術活動の継承・振興を図って参ります。

(4 豊かなスポーツライフの振興)

第4に、豊かなスポーツライフの振興について申し上げます。

希望郷いわて国体における「天皇杯順位8位以内」の目標達成に向け、入賞の可能性の高い競技・種別に重点を置いた選手強化や高

い指導力を有する指導者の招へい、強豪チームとの練習試合を拡大するとともに、スポーツドクターやアスレティックトレーナー等との連携の下、スポーツ医・科学に基づいた国体選手のサポートを行い、本県選手団の競技力の向上に取り組んで参ります。

また、「いわて教育の日」のつどいにおいても、国体開催の一層の機運醸成を図るほか、国体に合わせ、スポーツ博覧会、芸術作品等の展示展を開催することなどにより、本県の文化・スポーツを全国に向けて発信いたします。

さらに、トップアスリートの輩出を目指す「いわてスーパーキッズ」の取組を進め、中長期的な視点に立ったジュニア育成環境の整備を進めるとともに、国体の盛り上がりを継続させ、世界の舞台で活躍する選手の育成にも取り組んで参ります。

生涯スポーツの振興につきましては、県民が主体的に参画するスポーツ環境を整備するため、総合型地域スポーツクラブの育成や地域スポーツ指導者の養成・活用に取り組むほか、震災からの復興状況や市町村との連携協働、役割分担を踏まえつつ、老朽化している県営体育施設の総合的なあり方の検討を進めて参ります。

(むすび)

以上、基本的な考え方と施策の大要について申し上げました。

この一年間、子どもたちは学習・文化・スポーツなどの各分野において数々の活躍を見せ、県民に大きな感動や勇気、元気を与えてくれました。

スポーツ面では、天皇杯順位16位と大躍進を果たし、希望郷いわて国体へ大きな弾みをつけた「紀の国わかやま国体」において、陸上競技少年男子Aやり投げで高田高校3年の長沼元さんが、ボクシング男子ミドル級で江南義塾高校3年の梅村錬さんが、カヌー少年女子カヤックペア200mで不来方高校3年の五十嵐結衣さん、後藤可奈子さんペアが、優勝を果たしました。また、先月から始まった希望郷いわて国体冬季大会においても、本県選手の数々の活躍が大会を大きく盛り上げています。

文化面でも、全日本合唱コンクール全国大会において、不来方高校音楽部が2年ぶり5度目の金賞・文部科学大臣賞を、全国高等学校文芸コンクールにおいて、盛岡第三高校文芸部が最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞するなど、子どもたちの数多くの活躍が見られました。

一方、本県において2年続けて、いじめを一因とした中学生の痛ましい自殺事案が発生し、本県の教育に対する信頼が大きく揺らぎました。県教育委員会として、この事案を重く受け止め、亡くなった生徒の尊厳を忘れることなく、再発防止に向けて粘り強く取り組んでいくとともに、県民総がかりで、子どもたちの命を守り、いじめを許さない社会をつくって参ります。

新しい年の始まりに当たり、小学6年生に「2016年の抱負・決意」を表す漢字を一字選び、その理由も書いてもらいました。

一番多かった「進」を選んだ子どもたちは、その理由を「中学校に入って新しい学習や部活動を頑張りたい」「やるべきことを進んで行こう」「一步一步前に進んでいきたい」と書いていました。また、

ある子どもは「挑」という漢字を選び「何事もあきらめず、挑戦していきたい」と決意を述べていました。また、ある子どもは「歌」という漢字を選び、「東日本大震災などで被災した方々や家を流された人たち、大事な人を亡くした人たちを歌で元気づけていきたい」と抱負を書いてくれました。

なんと頼もしい子どもたちだろう、なんて健やかに成長している子どもたちだろうと、私は強く心を打たれました。

そして、改めて、このような子どもたちの願いや期待に応える教育界にしなければならない、子どもたちや県民の信頼に応える教育界にしなければならないと、強く決意いたしました。

復興を支え、次代を担う子どもたちを健やかに育てることは、岩手の明るい希望を育む県民全体の願いであり、教育の充実は未来への投資でもあります。

ここに改めて教育の持つ力と可能性に思いを致し、今後、より一層、学校、保護者、地域、行政が一体となって、岩手の教育の復興と発展に全力を尽くして参りますので、議員の皆様並びに県民の皆様御理解と御協力を心からお願い申し上げます。